

海水浴場の利用状況に及ぼすサービス施設の影響について

Effect of Service Preparedness on Recreation at Sea Bathing Resorts

島田 広 昭*・平 尾 幹 也**・井 上 雅 夫*
Hiroaki.Shimada, Mikiya.Hirao and Masao.Inoue

Under the following hypothesis that the seaside service facilities such as food shops, cottages and amusement spots are a major factor to control the motivation of going sea bathing, comprehensive field studies were done in summer season at two seaside resorts located coast around Osaka bay. The service facilities as well as transportation access and natural environment are remarkably important in the planning of construction or improvement of seaside resorts located in the suburbs of urban area.

Keywords : Sea bathing resorts , Service facilities

1. 結 言

従来、人工海水浴場に関する研究については、海浜の形状や底質などに関する海岸工学的なものは数多くなされているが、海水浴場における海の家などのサービス施設についてのものはあまりみられない。しかしながら、海水浴場に集まってくる人々の中には、サービス施設やそれによるにぎわいなど、海辺の持つ開放的な雰囲気求めてくるものも多く、海水浴場の計画に際し、サービス施設の重要性を軽視することはできない。本研究の目的は、海水浴場における利用状況や利用者意識に及ぼすサービス施設の影響を現地調査することによって明らかにし、海洋性リゾート施設の整備に際して必要となる基礎資料を得ようとするものである。

2. 調 査 方 法

現地調査は、大阪湾では海水浴場のメッカとして名高い神戸市の須磨海水浴場と大阪府が大阪湾沿岸の泉南海岸に開設した完全な人工海浜である淡輪海水浴場の2箇所を対象として、須磨では1990年7月25日(水)、淡輪では同年8月3日(金)に行った。アンケートによる利用者への意識調査は、いずれの海水浴場においても、その混み具合がほぼ一定となる12時から16時にかけて直接面接法により行った。また、利用者の海水浴場内における分布状況については、須磨では調査日の10時から16時の2時間ごとに、淡輪では1時間ごとに測定し、その結果から海浜の利用密度や水浴率の時間的変化を求めた。

3. 須磨および淡輪海水浴場における利用状況の比較

須磨海水浴場は、アクセスである幹線道路および鉄道のいずれもかなり整っている。また、すぐ近くには海浜公園や水族園、国民宿舎、ヨットハーバー、魚釣公園などがあり、オールシーズンにぎわう海洋性レクリエーションの拠点となっている。また、今回の調査対象とした公園前地区だけでも、海の家は23軒もあり、すぐ背後の海浜公園内には無料シャワーなどの施設も設置されている。一方、淡輪海水浴場は、アクセスとしては国道26号線と南海電鉄だけである。また、山地に囲まれた護岸背後は主に駐車場として利用されているが、そこに4軒の海の家とシャワーおよびトイレがそれぞれ3箇所ずつ設置されている。淡輪海水浴場の周辺には青少年海洋センターやヨットハーバーなどもあり、大阪府下における海洋性レクリエーションの拠点となっている。このように、須磨と淡輪では立地条件や自然環境条件がかなり異なり、海水浴場付近に豊かな自然が残されている点では淡輪のほうがやや優れ、交通基盤や海水浴場内およびその周辺の諸施設については、須磨のほうが整備されている。

3. 1 利用者数の推移

図-1は、両海水浴場における1986年から1990年までの7月と8月における利用者数と晴天日数である。これによると、1988年までは両海水浴場の利用者数と晴天日数の変化はよく対応しており、いずれも若干ではあるが減少している。1989年以降については、須磨では晴天日数の増加とともに利用者数も急増しているが、淡輪ではほとんど変化がみられず、晴天日数と利用者数の変化とは対応していない。したがって、1986年以降の淡輪にお

* 正会員 関西大学工学部土木工学科(〒564 吹田市山手町3-3-35)

** 学生会員 関西大学大学院

る利用者数の減少傾向は、晴天日数の影響だけによるものとはいえないであろう。この原因としては、淡輪海水浴場の近くに二つの人工海水浴場が開設されたことや、近隣の岬公園にプールが設置された影響もあろうが、須磨のようにアクセスや海の家などのサービス施設が充実していないことも、その一つとして考えられる。

3. 2 海浜利用者の住所

図-2は、アンケート対象者の住所である。なお、図中の数字はそれぞれの百分率である。これによると、須磨の利用者は、神戸市の須磨および長田区の地元の利用者が33%とかなり多いが、阪神間、大阪府北部および大阪市内などからの利用者もかなり多いことがわかる。さらに、淡輪が距離的にも時間的にも近い松原市や大阪市南部からの利用者もいる。一方、淡輪の利用者は、地元の岬町と大阪市との間の利用者が圧倒的多数を占め、またそのほとんどが南海沿線もしくは国道26号線沿いに限定されている。このような差異の理由としては、交通基盤の充実度の違いが大きな要因と考えられる。また、図示はしていないが、各海水浴場までの所要時間が1時間以内の利用者は、須磨では約66%、淡輪では約38%であることから、須磨のほうが利用しやすい海水浴場であることがわかる。さらに、遠方からの利用者のほとんどは若年層であるが、これについては遠方からでもサービス施設の充実している須磨海水浴場を利用したいという若年層のニーズが現れた結果であろう。したがって、大都市近郊の海水浴場ではアクセスの整備を十分に行うとともに、利用者に遠方からでも利用したいと思わせるような魅力的な海水浴場にしていく必要があろう。

3. 3 海水浴場の選択理由および利用回数

図-3は、両海水浴場に来た動機、目的、海水浴場の選択理由および海水浴場の気に入った点を示した。動機および目的については、いずれの海水浴場もよく似た傾向を示している。なお、図示はしていないが、動機については、若年層で「遊び」、高年層で「家庭サービス」が多く、目的については、若年層で「日光浴」、高年層で「水泳」および「浜遊び」が多い。選択理由については、両海水浴場とも「近くて手頃」がもっとも多いが、淡輪では「水がきれい」と答えた人が約22%いる。気に入った点については、須磨では「にぎやかである」が約70%を占めているのに対し、淡輪では「浜や水がきれい」と答えた人がもっとも多い。このように両海水浴場で気に入った点が、明確に異なることは興味深い。さらに、これらのことを前述した利用者数の変化と合わせて考えてみると、

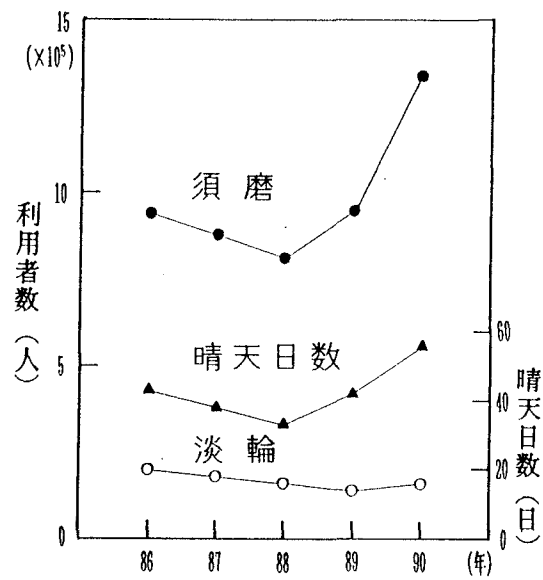


図-1 利用者数の推移

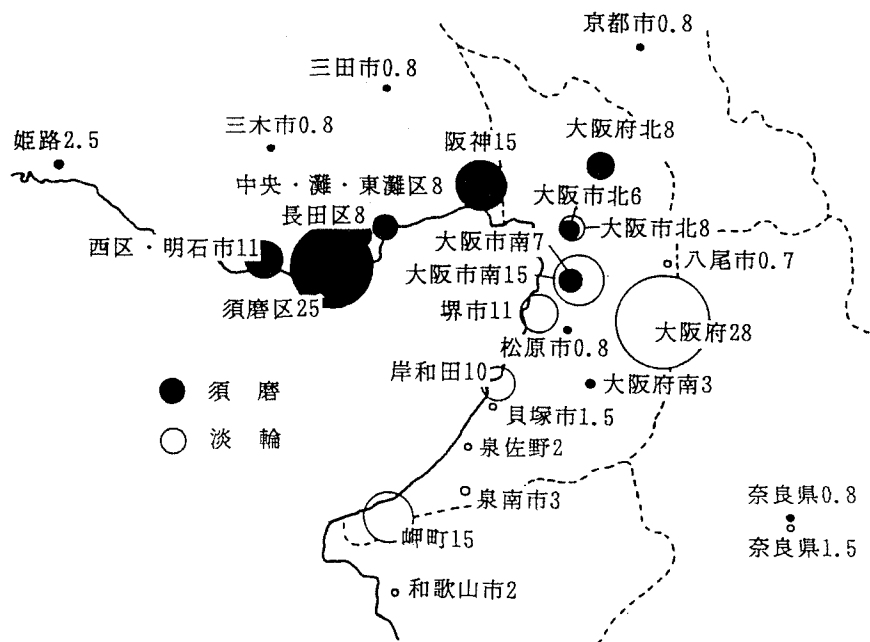
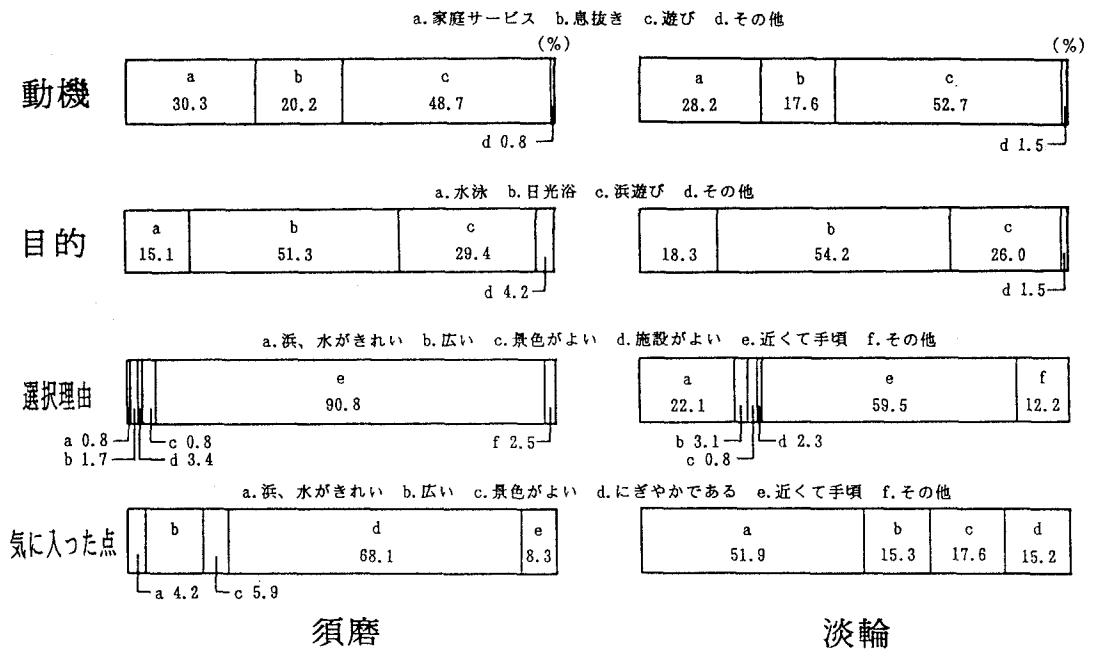


図-2 海浜利用者の住所

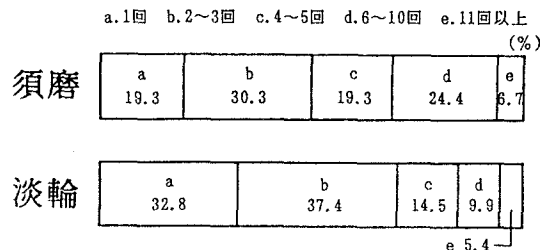


図－3 海水浴場に来た目的および海浜の選択理由

大都市近郊型の海水浴場においては、もはや自然条件の整備だけでは集客力の増大にはつながらないようであり、海の家のようなサービス施設の充実が重要な要素になっているといえよう。

図－4は、両海水浴場の年間利用回数である。これによると、1回と答えた人は、須磨が19.3%、淡輪が32.8%と淡輪の利用者のほうがかなり多く、逆に6回以上と答えた人は、須磨が31.1%、淡輪が15.3%と須磨のほうがかなり多い。また、図示はしていないが、須磨では6回以上の利用者は若年層に多く、3回以下の利用者は高年層に多い。

これについては、須磨では年間を通じて海浜が開放されていることと周辺に水族園や遊園地など海水浴シーズン以外にも利用できる施設があるため、若年層の人気を得ているものと思われる。したがって、常時海浜を開放しその背後に様々な施設を設置することによって、年間を通して海浜の利用者数を増加させることができ、また老若男女を問わず常に利用者が水辺に親しめる空間にすることができよう。



図－4 両海水浴場の年間利用回数

3.4 利用形態

図－5は、両海水浴場における水浴率の時間的変化である。なお、この場合の水浴率は汀線より海側にいる利用者数をその時間の総利用者数で除したものである。これによると、護岸より背後の人数を含まない場合の水浴率は、須磨では平均26%、淡輪では平均48%と両海水浴場でかなり差があり、同じ海水浴で海浜を利用するにしても、須磨の利用者は水泳や浜遊びだけを目的として来ている人の割合が淡輪に比べて少ないことがわかる。また、水浴率のピークが現れる時間は、いずれの海水浴場でも、気温がもっとも高い14時ごろであるが、その傾向については若干異なっている。すなわち、淡輪では水浴率が10時から14時までは時間の経過とともに増大しているのに対し、須磨では10時から12時にかけて水浴率は若干減少している。この原因については、海の家が多い須磨では、利用者が一挙に昼食や休憩をとることが可能であるのに対し、海の家が少ない淡輪では利用者が混雑を避けるために昼食時間や休憩時間をずらすためと思われる。

図－6は、両海水浴場における比利用密度の時間的変化である。なお、比利用密度とは、その区域における各時間の利用密度の1日の合計を1とし、それに対する各時間ごとの利用密度の比である。これによると、いずれの海水浴場も比利用密度のピークは14時であるが、淡輪では10時から14時にかけて徐々にピークに達するのに対し、須磨では急激にピークに達している。また、12時と16時においては、須磨よりも淡輪のほうが比利用密度は高い。これについては、海水浴場背後の交通基盤が大きく影響しているものと思われる。すなわち、須磨に比べ全般的にアクセスが不備な淡輪では、利用者が道路渋滞および電車やバス等の混雑を考慮して、早い時間に海水浴場に

到着し、ゆっくりと帰路につくためであろう。このことは、図示はしていないが、海浜利用者の利用時間が、須磨では3時間程度の人がほぼ半数を占めているが、淡輪では30%程度である。また、逆に6時間以上の利用者は須磨が5%程度であるが、淡輪では約16%もあり、淡輪の利用者のほうが利用時間が長いことから推測される。

4. 利用状況に及ぼすサービス施設の影響

4. 1 海の家利用状況

図-7は、両海水浴場における海の家の利用状況である。(a)図の海の家の利用度によると、淡輪では90%以上、須磨では約70%の人が海の家を利用している。この差については、無料シャワーが設置されている須磨と設置されていない淡輪との違い、さらには利用者の利用時間の違いによるものであろう。(b)図の洋風・和風の海の家の利用割合については、淡輪では海の家4軒のうち洋風のものが1軒であり、その利用者は約28%である。一方、和風が12軒、洋風が11軒の須磨では、ほぼ1:1の利用割合である。なお、図示はしていないが、両海水浴場の海の家の和風・洋風の利用割合を年代別にみると、洋風の利用者は両海水浴場とも10～20代の若年層が圧倒的に多いが、和風の利用者は、若年層と高年層の比が須磨ではほぼ4:6、淡輪ではほぼ6:4であり差はない。これらのことから、海の家の割合も和風と洋風が1:1程度であることが望ましいようである。

4. 2 海の家利用者の行動パターン

図-8は、両海水浴場内における利用者の位置と海の家の位置との関係を示した例である。なお、図中の線の太さは人数に比例し、数字はその区域における人数である。これによると、須磨および淡輪のいずれも和風の利用者の行動範囲は狭いのに対し、洋風の利用者は広い行動範囲を示している。このように、洋風の利用者は砂浜で陣取った場所のすぐ背後の海の家を利用するのではなく、多少距離はあっても、気に入った海の家を利用しようとする人が多いことは興味深い。なかでも、大手企業がスポンサーになっているファッショナブルな海の家については、この傾向が特に顕著であり、さらに、これらは海水浴場全体の雰囲気向上にも大きく貢献している。また、図示はしていないが、「なぜその場所に座ったか」という質問に対しては、和風の利用者のほとんどが「なんとなく」と答えているのに対し、洋風の利用者には「気に入った海の家があるから」と答える人もかなりみられた。さらに、利用者の海水浴場に來た目的や、海水浴場までの利用交通機関と砂浜における利用者の位置とを対応させてみても、「気に入った海の家がある」や「雰囲気がよい」などの理由で陣取る場所を選択する人がかなりいることも明らかになった。これらのことから、利用者には海の家に対してかなり個人の好みやこだわりを持っているものも多く、それが利用者分布にも大きな影響を与えていることが明らかになった。

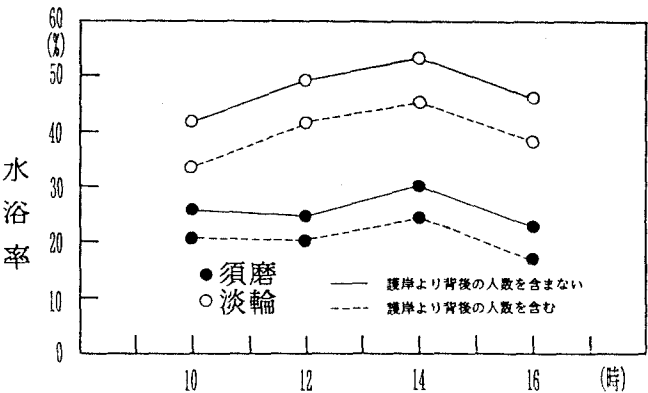


図-5 水浴率の時間的变化

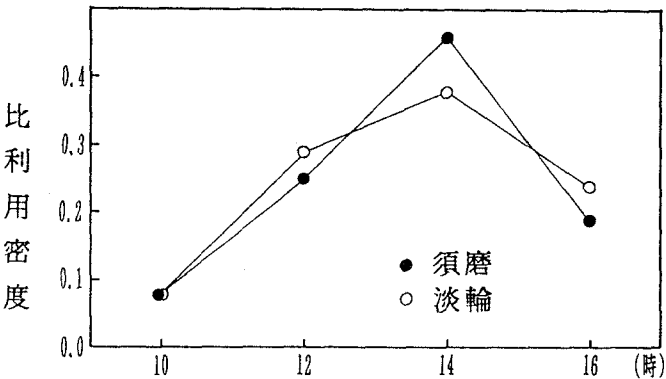


図-6 比利用密度の時間的变化

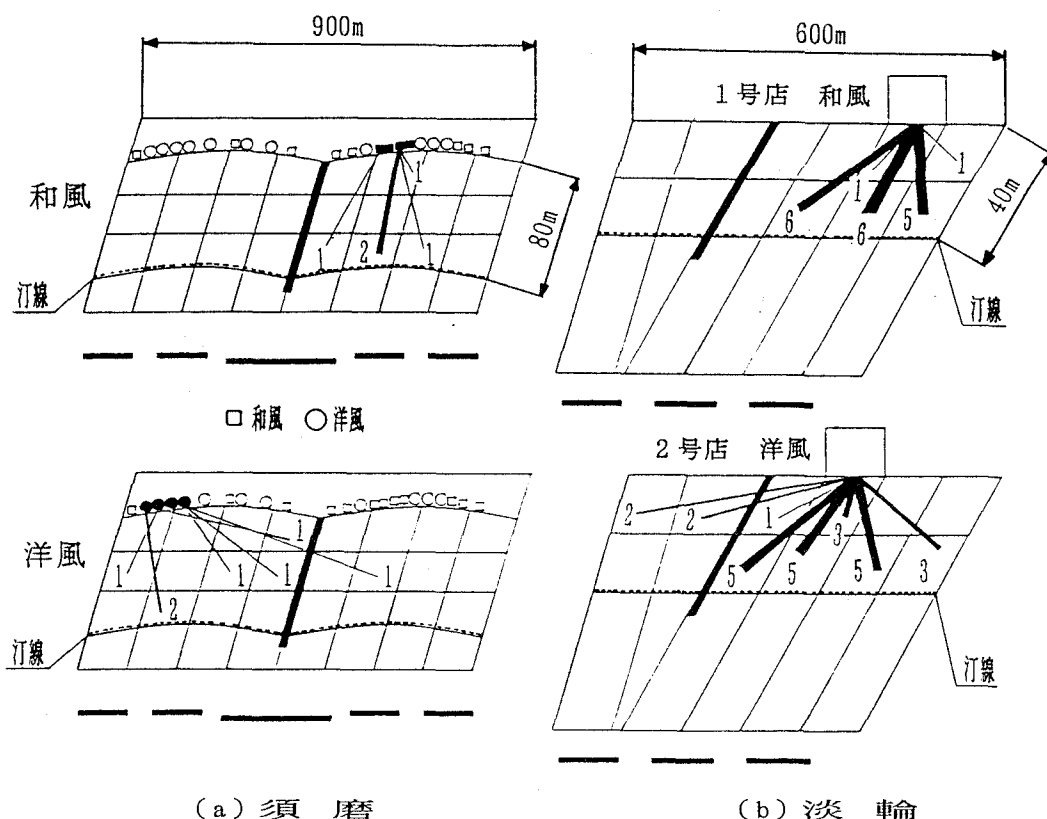
	(YES: 利用している NO: 利用していない) (%)	
須磨	YES 69.7	NO 30.3
淡輪	YES 91.6	NO 8.4

(a) 海の家の利用度

	(%)	
須磨	洋風 46.3	和風 53.7
淡輪	洋風 27.8	和風 72.2

(b) 洋風・和風の海の家の利用割合

図-7 海の家の利用状況



図－8 利用者の位置と海の家との関係

4.3 両海水浴場に対する満足度

表－1は、両海水浴場の砂浜に対する満足度である。これによると、満足していると答えた人は、須磨で約47%、淡輪で約56%であり、若干淡輪のほうが多い。また、不満点をみると、いずれの海水浴場においても「ゴミが多く汚い」や「砂が粗い」と答えた人が多い。しかし、「ビーチバレーコートやテニスコートが欲しい」と答えた人は須磨だけであり、実際にビーチバレーコートが設置されている淡輪では、このような不満は挙げられていない。これらのことから、砂浜のゴミなど環境面の管理を徹底して行い、またビーチバレーコートなどのレクリエーション施設を設置することも、利用者の砂浜に対する満足度の向上につながるものと思われる。

表－2は、両海水浴場の遊泳区域に対する満足度である。これによると、満足している人の割合は、いずれの海水浴場でも約65%であり、また、不満点についても「水が汚い」、「狭い」と答えた人が多く、両海水浴場とも「離岸堤をとって欲しい」と答えた人がいる。さらに、飛込台や休憩のための島など遊技施設の設置を望む人もみられる。これらのことから、海水浴場においては、景観を考慮して離岸堤を潜堤化すれば、圧迫感は和らぎ「狭い」という不満は少なくなるとともに海水交換がよくなることも期待されるため「水が汚

表－1 砂浜に対する満足度

須磨		淡輪	
満足 47.0%		満足 55.7%	
不満点	(人)	不満点	(人)
ゴミが多く汚い	55	砂が粗い	34
ビーチバレーコートや テニスコートがほしい	16	ゴミが多く汚い	28
砂が粗い	4	狭い	5
浜を広くしてほしい	1	砂が熱い	1

表－2 遊泳区域に対する満足度

須磨		淡輪	
満足 65.5%		満足 65.6%	
不満点	(人)	不満点	(人)
水が汚い	37	狭い	30
狭い	16	水が汚い	13
マリンスポーツを 取り入れたい	9	離岸堤を 取ってほしい	7
飛込台、島などの 遊技施設がほしい	7	遊技施設がほしい	3
離岸堤を 取ってほしい	3	波がない	2
		オイルフェンス	1

い」という不満もかなり解消されるものと思われる。さらに、遊技施設などの設置を行うことによっても、利用者の満足度は向上するものと思われる。

表－３は、両海水浴場のサービス施設に対する満足度である。これによると、満足していると答えた人は、須磨が約70%、淡輪が約60%である。また、不満点については、淡輪では「海の家を増やして、にぎやかにしてほしい」や「トイレ」に関する不満がかなり多く、これらは基本的なサービス施設に対するものである。これに対して、須磨では「マリンショップの開店」、「リゾートホテルの建設」、「プール開設」、「遊ぶ施設を増やして欲しい」など現在以上ににぎやかにして欲しいという内容のものが多く、これらのことから、海水浴場におけるサービス施設の充実度の違いが利用者意識に大きく影響し、さらに、この違いがここ数年来の利用者数の変化の違いに拍車をかけているものと思われる。したがって、大都市近郊の海水浴場の計画に際しては、これまで軽視されがちであったサービス施設について、十二分な検討が必要であろう。

5. 結 語

本研究では、海水浴場の整備に際して必要となるサービス施設についての基礎資料を得る目的で、神戸市の須磨海水浴場と大阪府岬町の淡輪海水浴場の2箇所において現地調査を行い、海水浴場における利用状況や利用者意識に及ぼすサービス施設の影響について検討してきた。それらの結果を要約すると、次のようである。

- 1) 海水浴場までのアクセスである鉄道や道路などの交通基盤が整備されている須磨では、かなり広範な地域からの利用者が集まっているが、国道26号線および南海電鉄しかない淡輪では、利用者のほとんどがそれらの沿線を中心とした大阪府下の人に限定されている。
- 2) 両海水浴場における利用者数の推移については、ここ数年の傾向がかなり異なっている。すなわち、須磨では利用者数が急増しているが、淡輪ではほとんど変化していない。また、須磨と淡輪では、利用者が海水浴場を選択する理由がかなり異なり、大都市近郊型の海水浴場においては、もはや自然環境条件の整備だけでは集客効果は期待できないといえよう。
- 3) 須磨海水浴場の利用者は、淡輪のものに比べ長時間利用者の割合は少ないが、年間利用回数は多い。このことは、須磨のほうが海水浴場において多様な楽しみ方ができることを示している。
- 4) 須磨海水浴場における水浴率は、淡輪のものに比べかなり低く、海水浴以外にも、海の家などを積極的に利用していることがわかる。
- 5) 大手企業がスポンサーの海の家は、海水浴場全体の雰囲気向上させるとともに、集客効果も発揮している。
- 6) 海水浴場において、利用者が洋風、和風のいずれの海の家を選択するかは、利用者の属性によって異なり、それぞれの利用者の海水浴場における行動パターンもかなり異なる。
- 7) 淡輪の利用者は、須磨のものに比べ、トイレ、更衣室およびシャワーなどのサービス施設充実についての要望が高い。

最後に、本調査に際して、貴重な資料を提供していただいた大阪府港湾局、神戸市港湾局の関係各位に深甚な謝意を表するとともに、現地調査や資料整理に大いに助力してくれた現在、東急建設(株) 野村 泰由、東亜建設工業(株) 渡辺 明貞の両君をはじめ当時関西大学海岸工学研究室の学生諸君に謝意を表する。

表－３ サービス施設に対する満足度

須 磨		淡 輪	
満 足 71.4%		満 足 60.3%	
不 満 点	(人)	不 満 点	(人)
マリショップ, リゾートホテル, プールなどを増し、にぎやかにしてほしい	20	海の家を増し、にぎやかにしてほしい	27
店の値段が高い	8	トイレが汚い	16
駐車場が狭い	6	トイレが遠い	5
砂浜にビーチパラソルをたててほしい	2	トイレが少ない	4
もっとオシャレにしてほしい	1	もっとオシャレにしたい	4